

朝を ひらく

一つの問いがきっかけで、意識が驚くほど深まることがある。オーストラリアを旅した娘夫婦が聞いてきた。「お父さん、なんで彼らはあんなに人生を楽しむことができるの?」朝のカフェでゆったりとした時間を楽しむ働き盛りの男女、愛犬とジョギングをする夫婦、どの顔も今を悠々と生きている。経済的ゆとりがあるからなのか。

しばらく滞在したA氏のお宅は、ゴールドコーストを一望できる賃貸マンション17階の一室。家賃は安くはない。かといって彼は決して経済的にリッチ

意識深める問い

永田 円了
真国寺住職



でもない。貯蓄もゼロに近いという。ちなみに現地で知り合った何人かも、彼と同様、貯蓄を気にせずにそれぞれに人生を楽しんでいる。

一方、日本。池上彰氏によると、日本人の貯蓄額は1世帯平均1820万円だという。ええ、そんなに、とびつくりするが、私たち日本人は彼らほど人生を楽しんでいるようには思えない。いやむしろ将来を不安に感じている様子をさえ思え

る。

この違いはいったいどこからくるのか。なぜ彼らは蓄えが少ないにもかかわらず、将来に不安をそれほど抱かずに、今を楽しむことができるのだろうか。社会保障制度の違いなのか。

しかし私はもっと違った角度から見してみた。旧約聖書出エジプト記にてでてるマナの話である。マナとは、エジプトから逃れた民が荒野で飢えたとき、モーゼの祈りによって天から降ってきたパンのこと。ただこのパンは、必要以上に集めても次の日まで保存がきかず腐ってしまうというもの。

一日分の糧を頂き一日を生きる。明日のためにとっておこうという考えは通用しないのだ。

毎月積み立てをして修学旅行へいった中学生時代。今日を我慢して明日のためにとっておく。貯蓄は必要であり美德として教えられてきた。しかし、ものを多く持つイコール幸せということなら、世のお金持ちが皆幸せだ、ということになる。必ずしもそうではないだろう。

物があるうがなかるうが、状況が良くても悪くても、それを普通に受け止めて、そこで幸せな感情を自分の中につくり上げる能力、この意識教育の欠如が日本の戦後教育の一番の問題ではなかるうか。

そして今浮かぶさらなる問いは、どうしてある人は、たいへん良い環境にあるにもかかわらず、墮落していくのか? どうしてある人は、劣悪な状況にあるにもかかわらず、成長発展していくのか? 問いが問いを呼び、意識を深みに導く。

人生を楽しむ力とは